

オーストリアをモデルに鳥取県が全国に先駆けて 「とっとり林業技術訓練センター」(愛称:Gut Hon)を開設

全国的な林業災害の特徴として、チェーンソーや伐倒に起因する災害が多い中、鳥取県でも平成27年に連続して伐倒に起因する死亡災害が発生しており、今後、素材生産量の拡大を目指す上で、チェーンソーの安全作業は喫緊の課題となっています。

一方、日本と同じく急峻な地形で、北海道と同程度の面積でありながらも、日本とほぼ同じ素材生産量を誇るオーストリアでは、徹底した機械化とチェーンソー防護衣の完全着用、実技訓練が充実した研修体制整備などの安全対策を進めることにより、素材生産量を1990年の1.5倍に増加させながら、労働災害を約2分の1に減少させています。

そこで、県では、効率的で安全な林業を実践しているオーストリアをモデルとし、平成26年度から調査団の派遣や技術導入に向けた取組を実施してきました。その技術導入の一環として、全国に先駆け、オーストリアの森林研修所を参考とした、伐倒等を徹底して反復訓練・教育できる「とっとり林業技術訓練センター」(愛称:Gut Hon)を平成29年3月に開設しました。

愛称の「Gut Hon」(グートホルツ)は、オーストリアの林業関係者の間で、安全作業で木材を生産しようというスローガンで使われており、オーストリアから研修講師として招聘したピヒル森林研修所のマルティン・クロンドルフアー所長からご提案いただいたものです。

センター内には、伐倒訓練装置(4基)、風倒木伐採訓練装置(1基)、枝払い訓練装置(1基)、チェーンソーキックバック装置(1基)が設置され、これまで現場(山)での指導では難しかった反復訓練が徹底してできるため、チェーンソーの基礎的技術の習熟度を高めることができます。

研修生からは「いきなり山で伐採するより、安全な練習環境で基礎を反復訓練できてよい」「周囲で見られながら、すぐ指摘を受けられるので上達が早い」といった声が聞かれるなどとても好評です。今後は、県内で導入されているオーストリア製のタワーヤーダに関する研修も予定されています。県では、この「Gut Hon」を活用しながら、スローガンのとおり日本一安全な作業で木材を生産する林業を目指すこととしています。



伐倒反復訓練での受け口等確認



枝払い訓練装置を用いた研修



ピヒル研修所講師によるタワーヤーダ作業の現場指導

看板除幕式